

都市再生整備計画 事後評価シート
大垣市中心市街地地区
(原案)

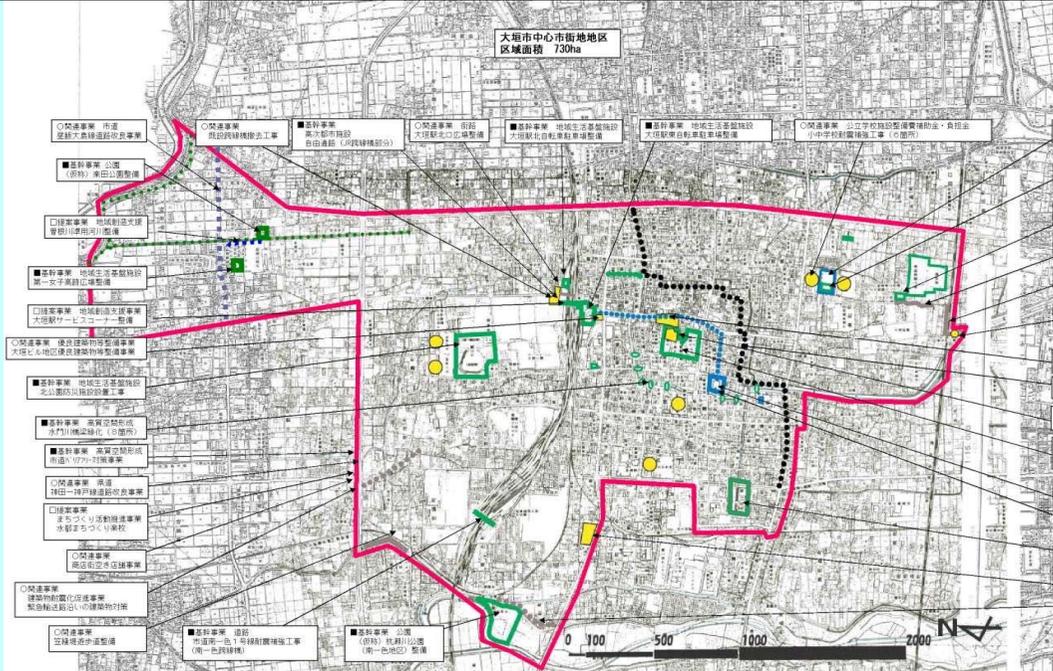
平成22年11月

岐阜県大垣市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	大垣市		地区名	大垣市中心市街地地区			面積	730ha	
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	2,237百万円	国費率	0.405			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	道路(市道南一色1号線)、公園(杭瀬川公園、大垣公園)、地域生活基盤施設(大垣駅北自転車駐車場整備、北公園防災施設設置工事、大垣公園防災施設設置工事、美和地区防災施設設置工事、美和地区調整池設置工事)、高質空間形成施設(美濃路景観整備、水門川橋梁緑化、市道バリアフリー対策事業)、高次都市施設(自由通路(人工地盤)(JR跨線橋部分))								
			提案事業	まちづくり活動推進事業(水都まちづくり楽校)、地域創造支援事業(市庁舎壁面緑化、大垣城郭整備)								
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			基幹事業	公園(見取公園)、地域生活基盤施設(市民病院南広場整備、自由通路(駅ビル部分))、高質空間形成施設(四季の路整備、自由通路(大垣駅南口広場部分))			事業期間内の実施が困難なため、用地取得が困難なため、既存の施設を活用するため			代替事業として公園整備を追加するため目標値は据え置き、指標1,2の影響が懸念されるが目標値は据え置き、全ての指標に影響するが目標値は据え置き		
			提案事業	地域創造支援事業(通路整備(駅ビル部分)、花いっぱい運動(花飾りまちなみギャラリー)、地震時経路整備事業、無可有荘保存修復整備、ひまわり学園耐震補強工事、南中学校校庭改修工事)、事業活用調査(大垣城郭調査)、まちづくり活動推進事業(大垣城郭PR事業)			既存の施設を使用するため、他団体の協力により必要なくなったため、他事業により目的が達成されたため、事業期間内の実施が困難となったため、発掘調査をしなくなったため、天守閣復元のための整備となったため			既存施設を利用するため目標値は据え置き、他事業により実施されたため目標値は据え置き、指標3に關係するが目標値は据え置き		
新たに追加した事業		基幹事業	公園(柴田公園、西公園)、地域生活基盤施設(大垣駅東自転車駐車場整備、第一女子高跡広場)			曾根川の水辺の修景と調和させた公園整備を行う、防災機能の拡充を行う、駅周辺の交通環境の整備を総合的に推進する、良好な景観形成、レクリエーションやコミュニティ機能の拡充を行う			代替事業として追加するため目標及び指標は据え置き、全ての指標に影響するが目標値は据え置き			
		提案事業	地域創造支援事業(大垣駅南北自由通路(サービスコーナー)、曾根川準用河川改修工事)、事業活用調査(事業効果分析調査)			橋上駅舎部に情報等サービス提供の場を設ける、安全と防災機能強化及び良好な河川環境の創出する、まちづくり交付金を活用した事業評価を行う			全ての指標に影響するが目標値は据え置き、指標1に影響するが目標値は据え置き、影響なし			
交付期間の変更		当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	地区内居住人口	人	36,127	H16	36,500	H22	36,423	35,617	あり	平成20年度には目標値に近づき、一定の効果を見せていたが、急激な社会経済情勢の変化により目標を達成できなかった。	平成23年5月
	指標2	駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)	人/日	4,971	H15	6,000	H22	-	14,225	あり		
指標3	大垣城年間入場者数	人/年	31,345	H16	35,000	H22	39,453	44,521	あり	社会情勢の後押し(歴史への関心の高まり)があったことや大垣城周辺の大垣公園や美濃路景観整備や水門川橋梁緑化等の整備の相乗効果で大垣城の入場者数が増加している。	平成24年5月	
									なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
その他の数値指標1	地域内における安心・安全な移動の満足度	%	72<参考値>	H17			-	77			大垣駅南北自由通路の整備や市道バリアフリー対策事業等により、地区内の移動が安全・安心・円滑に通行できるようになっている。	平成23年5月
4)定性的な効果発現状況	大垣駅南北自由通路の整備により、まちの賑わいの創出に寄与し、街が明るくなった。また、駅北側・駅南側の両方向へのアクセス性が向上し、利便性がよくなった。柴田公園はきれいに整備され、親子の憩いの場になっている。大垣公園は、整備によって明るくなり、防犯性が向上したことから安心して歩けるようになった。また、親子が安心して利用できるようになった。大垣城をはじめとした整備により、歴史的資源が活用され、まちの歴史的文化度が向上した。水都まちづくり楽校の開催により、地域に対する愛着心の向上やまちづくりに対する関心・意識が高まった。											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	目標を定量化する指標の数値データ整理、有識者からの意見聴取			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					事業効果の把握を定期的に計画		
	住民参加プロセス	「大垣市 都市再生整備計画」市民参画によるワークショップの開催 水都まちづくり楽校の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					水都まちづくり楽校を活用した市民参画の継続 NPO支援等		
持続的なまちづくり体制の構築	水都まちづくり楽校の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					水都まちづくり楽校を利用した持続的なまちづくりの継続 NPO支援等			

様式2 - 2 地区の概要

大垣市中心市街地地区(岐阜県大垣市) 都市再生整備計画の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標:水・緑・歴史・文化と共生する都心づくり 目標1:賑わいと活力ある中心地の再生 目標2:歴史的資源を活用した特色あるまちづくり 目標3:安全・安心に住み続けられるまちづくり		地区内居住人口	単位:人	36,127 H16	36,500 H22	35,617 H22
		駅跨線橋利用歩行者数 (両方向日平均)	単位:人/日	4,971 H15	6,000 H22	14,225 H22
		大垣城年間入場者数	単位:人/年	31,345 H16	35,000 H22	44,521 H22
		地域内における安心・安全な移動の満足度	単位:%	72<参考値> H17	-	77 H22
基幹事業 (仮称)楽田公園整備 				基幹事業 美和地区調整池設置工事 		
提案事業 水都まちづくり学校 				基幹事業 自由通路(JR跨線橋部分) 		
基幹事業 北公園防災施設設置工事 				基幹事業 美濃路景観整備 		
まちの課題の変化				<ul style="list-style-type: none"> ・駅南北の一体性と利便性が向上し、南北自由通路の通行者が大幅に増加したため、駅北側の賑わいの創出に寄与した。 ・美濃路景観整備や大垣城天守の史実性の高い復元・公園整備の相乗効果により、大垣城の入場者数が大幅に増加した。 ・楽田公園や大垣公園、第一女子高校跡地等の整備で憩いと潤いのある公園が整備された。 ・公園等への防災施設整備により、災害時の避難場所・防災拠点が整った。 ・地区内の基盤整備は整ったが、地区内居住人口の減少に歯止めがかかっていない。 ・大垣駅南口の利便性の向上や駅南地区の活性化による駅南側の一層の賑わいの創出が求められている。 ・観光資源のPRや案内サイン等を充実させ、さらにまちの回遊性の向上を図ることが求められている。 ・市民への防災施設のPRによる、防災意識の向上を目指す。 ・まちづくり活動の醸成により、市民協働の意識が芽生えてきている。 		
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・駅南口の利便性をより一層向上させる。さらに、駅北側と駅南側の交流を促進する。 ・さらなる観光地としての魅力向上にむけ、歴史的・文化的遺産を活用しつつ、案内サインを充実させ、回遊性を高める。 ・地区内居住人口を維持し、まちの一層の賑わいを創出する。 ・整備された防災施設を生かし、市民の防災意識を高める。 ・まちづくり活動を活かし、さらなる市民協働意識の醸成を図る。 				